

国際物理オリンピック2023記念協会における支援事業

一般社団法人国際物理オリンピック2023（以下「IPhO2023」）協会（代表理事・会長 小林 誠）は、2023年7月に、第53回国際物理オリンピック日本大会を開催し、世界から約80の国と地域からの参加を得て、成功裡に実施完了を踏まえて、本法人は、2024年7月から国際物理オリンピック2023記念協会（International Physics Olympiad 2023 Commemorative Association）（以下「IPhO2023記念協会」）と名称変更して、以下の事業の活動を行っています。

- 1) 物理学及び関連分野における次世代の人材育成
- 2) 物理学及び関連分野における教育方法の改善
- 3) 物理学及び関連分野におけるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（Diversity Equity and Inclusion : DE&I）の実現
- 4) その他目的を達成するための事業を開始しました。

IPhO2023記念協会では、上記に関して公募し、現時点で4団体が計画する5事業について支援しています。
その概要は、次頁以降をご覧ください。

この取り組みは、IPhO2023大会開催の残余金を原資として、当面2年程度の活動を行いつつ、その効果等を検証した上で、それ以降の活動について検討します。引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

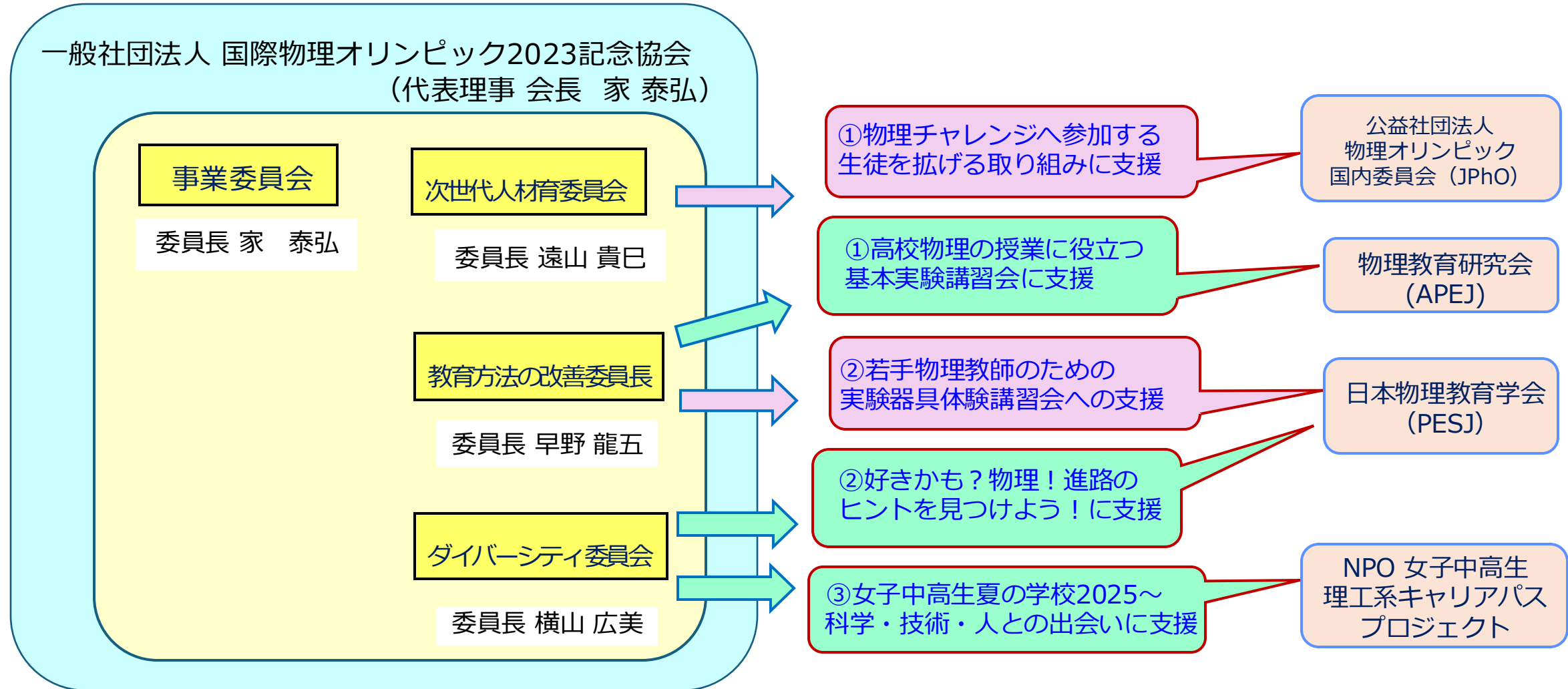
一般社団法人 国際物理オリンピック2023記念協会
代表理事・会長 家 泰弘



<https://ipho2023-commemorative-association.jp/2024/07/01/new-development/>

国際物理オリンピック2023記念協会 による支援事業（4団体5事業）

2025年4月



※  : 2025年度に支援する事業  : 2024年度に支援した事業

国際物理オリンピック2023（IPhO2023）記念協会が 2025年度に支援する団体とその取り組みを紹介①

団体名：物理教育研究会(APEJ)（対象事業の類型：教育方法の改善）

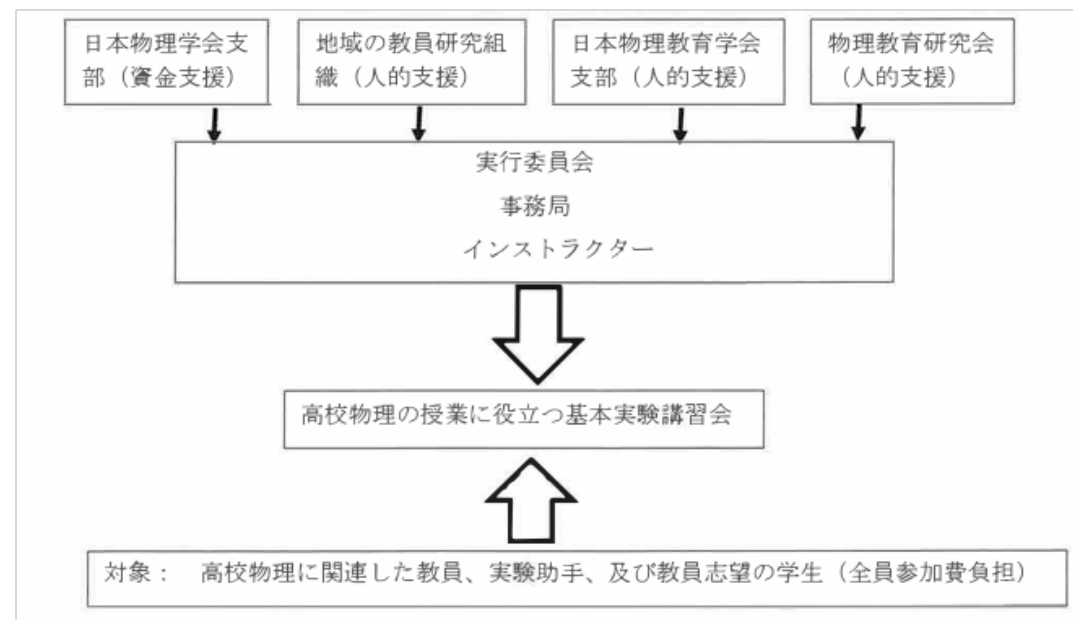
ホームページ：URL: <https://www.apej.org/>

支援事業：高校物理の授業に役立つ基本実験講習会

実験が高等学校の授業にあまり取り入れられていない現状に対する対策の一つとして、物理教育研究会（APEJ）は標記の講習会を2008年以来毎年継続して実施してきました。講習会のテーマは、主にぜひ実施してほしい教科書で定番の基本的な実験です。現在は東京だけでなく、札幌、東北、新潟、高松、福岡の各地で、現地の教員組織と連携し、日本物理学会及び日本物理教育学会の各支部との共催で開催しています。

最近、可能なテーマについてはセンサを用いたPCやスマートフォンの計測を取り入れています。そのため、センサ及び周辺の計測用機器を講習会全体としてある程度の量を確保し、各地区での活動にも利用することにしています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、教育方法の改善の観点から、2025年8月（東京会場）11月～12月（地域会場）で開催される「高校物理の授業に役立つ基本実験講習会」を支援します。



国際物理オリンピック2023 (IPhO2023) 記念協会が 2025年度に支援する団体とその取り組みを紹介②

団体名：日本物理教育学会（PESJ）（対象事業の類型：（対象事業の類型：ダイバーシティ等の実現）

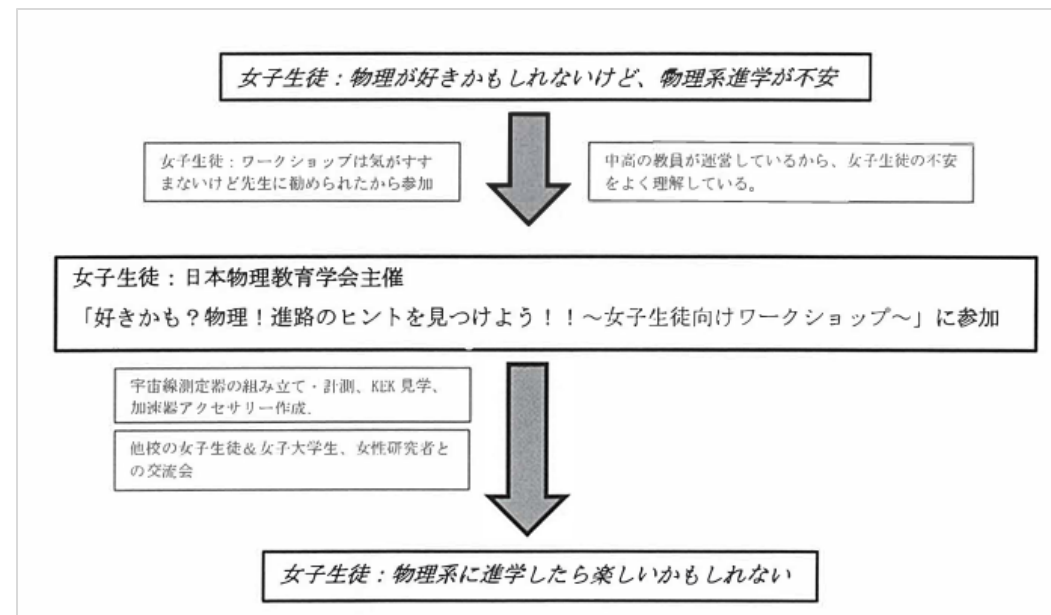
ホームページ： <https://pesj.jp/>

支援事業：好きかも？物理！進路のヒントを見つけよう！～女子生徒向けワークショップ～

科学技術・学術の継続的な発展するには、女性研究者・女性技術者の活躍が期待されています。近年、様々な女子生徒を支援する事業が実施され理工系進学者は増加してきましたが、物理系に進学する女子生徒の数は依然低く、また物理に興味はあるけれど、物理系進学に不安があり、選択しない女子生徒が一定数いることも明らかになってきています。

本事業では、既存のワークショップ等の内容を利用して、中高教員が多く在籍している日本物理教育学会が事業主となって、物理系進学に不安がある生徒に焦点をあてて募集をします。今回測定機器を備えることで、今後も持続的に、ワークショップ等を開催することになっています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、ダイバーシティ等の実現の観点から、2025年7月末に開催される「好きかも？物理！進路のヒントを見つけよう！～女子生徒向けワークショップ～」を支援します。



国際物理オリンピック2023 (IPhO2023) 記念協会が 2025年度に支援する団体とその取り組みを紹介③

団体名：NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト（対象事業の類型：ダイバーシティ等の実現）

ホームページ： <https://gstem-cpp.or.jp/>

支援事業：女子中高生夏の学校2025～科学・技術・人との出会い～

NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトは、理工系への進学を躊躇している女子中高生に、研究者や技術者が幅広い分野の科学や技術の魅力を伝え、ロールモデルを提示し、女子中高生が、具体的に自らの理工系キャリアパスを描くことができるようにすることを目指しています。

これらを実現するために、毎年8月上旬に合宿型の研修「女子中高生夏の学校」を開催しており、全国から約120名の中高生が参加し、約40名の女子大学生・院生TAと約20名の実行委員が運営を担います。（2025年度は会場の都合で参加者90名を予定）

この取り組みには、日本物理学会、応用物理学会はじめ約40の学協会と約10の企業から、実験実習やポスター展示・キャリア相談で述べ200人以上の科学者技術者がプログラムを提供しています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、ダイバーシティ等の実現の観点から、2025年8月に開催される「女子中高生夏の学校2025～科学・技術・人との出会い～」を支援します。

女子中高生夏の学校
2025年参加者
全国から中高生90名



運営
実行委員 20名
運営補助
女子大学生TA 30名
プログラム実施
学協会、団体、企業
200名
助成団体
企業、財団、学協会

1日目
キャリア講演
学生企画 アイスブレイク
2日目
実験実習、ポスター展示、キャリア相談
学生企画 キャリアプランの作成
3日目
学生企画 キャリアプランの発表

国際物理オリンピック2023（IPhO2023）記念協会 が2024年度に支援した団体とその取り組みを紹介①

団体名：公益社団法人物理オリンピック日本委員会(対象事業の種類：次世代の人材育成)

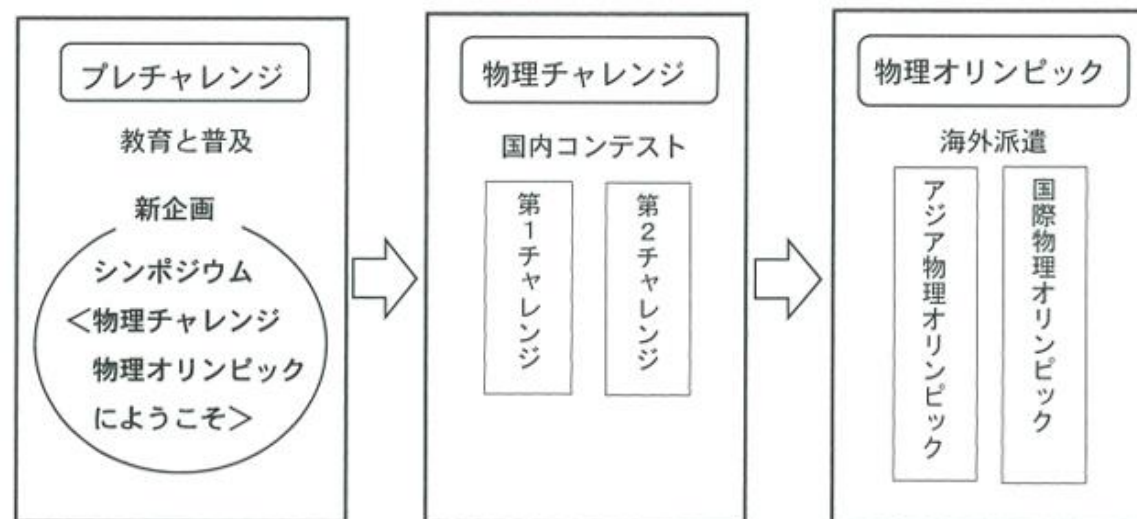
ホームページ： <https://www.jpho.jp>

支援事業：JPhOシンポジウム「物理チャレンジ・物理オリンピックにようこそ」

物理オリンピック日本委員会（JPhO）は、国内コンテストを実施する「物理チャレンジ」、選抜選手を海外に派遣する「物理オリンピック」、物理教育の裾野を広げる「プレチャレンジ」の3つの主要事業に取り組み、次世代の人材育成を目指して活動しています。JPhOは、当事業の広報と「物理チャレンジ」への参加者数増を目的として、プレチャレンジ研修会回数を増やすことと、新規に、シンポジウム「物理チャレンジ・物理オリンピックにようこそ」を開催します。

このシンポジウムは、JPhOの取組の紹介、実験実習、物理系出身起業家の講演からなり、参加者を中高生と高校教員から定員募集し、午前中はハイブリットで理論と講演、午後は現地開催で実験実習を取り入れたプログラムからなっています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、次世代人材育成の観点から、2025年3月に開催される「物理チャレンジ・物理オリンピックにようこそ」を支援しました。



国際物理オリンピック2023 (IPhO2023) 記念協会 が2024年度に支援した団体とその取り組みを紹介②

団体名：日本物理教育学会（PESJ）（対象事業の類型：教育方法の改善）

ホームページ：<https://pesj.jp/>

支援事業：若手物理教師のための実験器具体験講習会

日本物理教育学会では、同学会に所属する全国の若手・中堅の教員を対象に実験器具体験会を企画しこれまでに3回開催しました。現在、高等学校での授業では、生徒が積極的に物理実験を行える機会は少なく、将来夢を持って物理に挑もうとする資質・意欲のある生徒の芽が摘まれてしまうという憂うべき現状にあります。

第4回若手物理教師のための実験器具体験講習会では、よくある実験道具から新しく便利なセンサー機器などの道具まで、様々な物理教材について、作り方・利用法について体験するプログラムはこれまでと同様で行いますが、今回は授業展開などについて参加者同士が議論したり、情報交換したりできるような講習会を予定しています。さらに、物理教材等を参加された教員の地域に持ち帰り、学校の授業において実験が広く取り入れられることでその地域で物理実験が普及し根付くようなことが期待されます。また、IPhO2023日本大会の実験試験で使用されたキットを用いた実験の体験も計画しています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、教育方法の改善の観点から、2025年2月に開催される「若手物理教師のための実験器具体験講習会」を応援しました。

